



HAEマーク

患者さん用

フィラジル®皮下注30mgシリンジ(フィラジル®)を
ご自身で注射される方へ

注射部位反応について

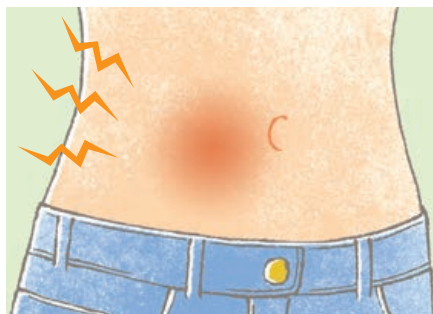
～原因と対策～

症状や体調がいつもと違うと感じたら
すぐに主治医にご相談ください。

注射部位反応とは

皮下注射の後、注射した部位に以下のような反応が出ることを、
注射部位反応といいます。

- 赤くなる
- 腫れる
- 熱くなる(熱を持つ、火照る)
- かゆくなる
- 痛くなる など



フィラジル®で報告されている注射部位反応

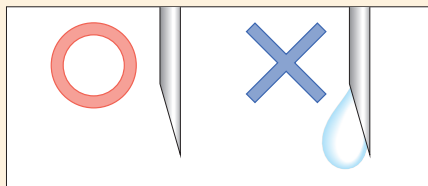
日本人の遺伝性血管性浮腫患者8名に対してフィラジル®を皮下注射したところ、7名に注射部位反応が認められました。

その主な症状は、赤くなる(7名)、腫れる(7名)、熱を持つ(4名)でした。うち6名は軽度または中等度であり、注射後8時間以内に消失しました。1名で重度の紅斑(赤くなる)が認められましたが、注射2時間後には症状が消失しました。

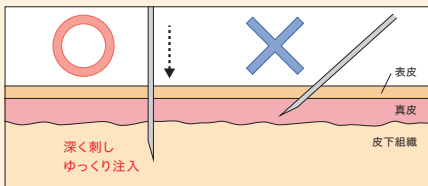
自己注射をする際のコツ (マーカス・マウラー先生*からのアドバイス)

※ドイツ ベルリン医科大学(シャリテ病院) 皮膚科学・アレルギー学 教授
HAEの国際的な専門医、HAEの海外ガイドラインの編集委員などを務めている

- 注射をする前に空気抜きをせず、薬液が出ないようにしておく
(皮下には、空気が多少入っても問題ありません)
- 注射をする際、皮膚(からだ)に対してなるべく垂直に深く刺す
(推奨角度は垂直から45度です)
- 2~3分かけてゆっくり薬液を注入する
(少なくとも30秒以上かけて注入してください)



針先に漏れた薬液(フィラジル®)が皮膚に触れ、それが刺激となる可能性があります。



皮下に十分達しない浅い刺入、急速な注入などが、皮膚への刺激となる可能性があります。

フィラジル®全国講演会(2018年12月9日開催)をもとに作成

上記はあくまで投与方法の一例です。実際の投与においては、主治医の指導の下に行ってください。

注射部位反応を軽減するための対策

注射の場所が不適切



あざや腫れ、傷や痛みのある場所のまわり5cm程度は注射を避けます。

同じ場所に繰り返し注射



前回、おなかの右側に自己注射したら、次はおなかの左側にするようにします。

注射液の温度(冷たい)



夏場など、注射器を冷蔵庫保存している場合、注射前にシリンジを手で握るなどして薬液を常温に戻します。

ただし、発作時、急を要する場合には直ちに注射することを優先します。

注射後



注射した場所を揉まないでください。

重篤な過敏症(頻度不明[※]):アナフィラキシー等の重篤な過敏症があらわれることがあるので、全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、息苦しい、動悸などの症状が認められた場合には速やかに投与を中止し、主治医にご確認ください。

注:海外の市販後の使用経験により報告されている副作用のため、頻度不明。